

目黒会 北海道支部 令和6年度 支部総会

日時： 令和6年9月28日（土） 14時00分より

会場： 札幌市『豊平館』下の広間、並びに ZOOM 利用によるリモート併催

参加者： 梅澤（1972B）、高橋（1967JR）、美馬（1980D）、吉井（1979I）、畦田（1970R）
藤川（2010J）、加賀谷（1990F）、倉田（1990N）、水谷（1999M）、浜中（1987C）
酒井（1974P）、本庄（1982R）

来賓： 電気気通信大学 大家 理事（1973R）、目黒会 森 会長（1967C）

他支部会員： 坂藤（北陸 1971D）、傘（首都圏 1971D）、今井（長野 1971D）
杉山（長野 1969JR）

ZOOM 参加：竹田（首都圏 1971D）、山本（1959JT）、麻田（1972JR）

順不同、カッコ内数字記号は入学年度および学科

総会議事：

令和5年度 北海道支部活動報告、支部収支報告

令和6年度 活動予定（これまでの活動報告）、予算案報告

いずれも拍手にて承認。

支部代表代議員選出について報告

まもなく目黒会の令和7年4月からの代議員の選挙が行われる。それに先立ち、選挙管理委員会より支部代表代議員の選出を求められた。支部長より役員へ「現任の本庄支部長の再任」を提案し、了承された。すでに選挙管理委員会には通知し、承認されている旨を報告。

挨拶

初代支部長 梅澤英行 『20周年に寄せて』

始まりは、東京ビッグサイトでのコンピューター関連展示会において自社ブースに隣接して電通大がブースを構えていたこと。そこで知り合った当時の目黒会理事であった安田氏から北海道支部の立ち上げについて提言を受けた。名簿をもとに札幌近郊在住者に声をかけたところ良い反応があり、翌年、今回の開催場所でもある豊平館で設立総会を開くことができた。

私はいろいろとやりたい方なので、支部の旗を作り、支部ホームページを開設、見学会なども開催した。ホームページは思いのほか年長の先輩諸氏に好評で、なかでも官立一高一期の杉目氏が特に気に入って下さり、ご自身の体験を毎週のように UP して下さった。電通大の根っこである通信・トンツーに関する話題で、その投稿がもとになり、全国の通信仲間からも声が集まっていたとのことだった。

大きな声では言えないが(笑)、北海道支部開設依頼の裏の理由は北海道の快適な環境でのゴルフだったと思う。私と倉本氏で本部関係者をゴルフ接待し、前日だけでなく当日朝もプレーをして、その後支部総会に出席というゴルフ三昧だった。ホストとして大変だったが楽しい時間でもあった。このようにして骨を折る分、支部に寄付をお願いし支部の財政に貢献してもらった。それを資金にして懇親会の二次会では若手会員から会費をもらわなかったのが私の自慢のひとつである。

当時いたメンバーは「梅澤さんはよくやってくれているな」と思っていてくれたと思うが、私としてはその後引き継いでくれたメンバーがとてもよくやってくれていて、今日の20周年を迎えることができ、さらに30年へむけて新たなスタートを切ってもらいたいと願っている。

（ 編者より：杉目さんは2020年7月ご逝去されました ）

来賓挨拶・講演:

大家万明 電気通信大学理事 (国際・広報担当)

- 再任2年間の抱負
 - 田野学長とともにあと2年の任期。フェーズ2としてプランを実行。
 - 新しい大学像の提案、組織人事の見直しなど、学生ファーストの運営。
- 「本学が対応すべき国の重要政策の実施状況」
 - 10兆円ファンドでの博士学生支援。電通大は博士学生が少なく、研究大学とは言えない現状。そのため博士学生の増が急務。AI分野も含め、支援枠の申請確保へ。
 - 東京西部にある農工大、電通大、外大の連携で地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に採択。
 - デザイン思考・データサイエンスプログラム』『D×2』プログラム：略称『デン・ツー・プログラム』が2023年度より開講。学部定員増が認可。
- 「キャンパスマスタープラン」
 - 施設整備計画が進行中。西9号館の整備が完了し、次は健康管理センター近くに1棟新築のほか、五思寮の建替えや東地区北エリアの再開発（サークル棟、東31号棟）など諸々進行中。
- 「電通大ナラティブを作りたい」
 - 電通大の歴史を元に「電通大遺伝子」の伝承へ。そのために逸話や伝説、世界初、日本初的なネタを募集中。
- その他
 - コミュニケーションミュージアムのリニューアル。専門家だけでなく一般の方にも響くミュージアムへ。

森 淳 目黒会会長

- 目黒会活動方針
 - これまで通り、大学との連携を重視。
 - 在校生へのサービス強化：活動開始時期が早くなった就職活動支援、国際学会参加支援など。
 - 同窓生へのサービス強化：ホームページ同窓会ラウンジの活用、長寿・結婚の祝電送付など。
 - 今夏、新しいオリジナルグッズ（水筒、キャップなど）が登場。
- ホームカミングデー
 - 今年7月に第11回ホームカミングデー開催。前回から卒業周年（0年、5年、10年・・・）会員の懇親会開催。
- 会費納入の案内
 - 会費納入時期の会員には目黒会報に振込用紙を同封。用紙が封入されていた場合、忘れずに会費納入を。
- お勧めの会員サービス
 - 「クラス会開催サポート」幹事の依頼で、目黒会から対象となる同窓生へメールにて通知を送信。
 - 『同窓会ラウンジ』（<https://megurokai.jp/home2/>）において写真投稿など募集中。現在は「紅葉写真」を開催中。残念ながら北海道からの投稿は少なめ。積極的な投稿を。

特別講演:

美馬のゆり 公立ほこだて未来大学教授、電気通信大学監事 『先端科学技術と社会』

- **9月から電通大の監事に** 今年9月から電通大の監事に着任した。法人化された国立大学の運営を監督するのが仕事。私のこれまでの経験を生かせると考えている。
- **コンピューターとの出会いから今** 高校の「数学部」で数学パズルの問題集やプログラミングのテキストを作っていた。学校のそばのIBMを見学して「コンピューターってすごい」と感化され、その道へ進むことを志し、電通大の計算機科学科に入り、今の自分がある。
- **科学技術と社会** 1960年頃の科学技術肯定の時代、大阪万博や原子力発電、鉄腕アトムがあり月面着陸など「科学技術がどんどん生活を豊かにしてくれる」時代。科学技術には①肯定的立場、②否定的立場、③限定的立場の3つの立場があるが1970年頃に限定的立場への転換が起こる。
- **科学コミュニケーションの登場** 科学は面白いし役に立つが反面危ないものもある。科学技術のブラックボックス化は危険。「出来ること」と「やって良いこと」は違う。民主化・透明化、研究の途中経過を見せることが必要。IPS細胞の山中先生が頻りにテレビに出ていたのはこういう背景がある。科学について広く知らしめ、関心をもってもらうよう「科学コミュニケーション」の促進が必要。時代に合わせ、さまざまな接点を提供する必要がある。公立ほこだて未来大学の立ち上げやほこだて国際科学祭の主催もそのひとつ。
- **問題解決へ向けて** 生成AIなど急激に進化し社会生活に影響をおよぼすようになってきた。市民、とくに子供たちへの教育がポイント。AIリテラシー『AIを理解し、適切に利用し、その技術が社会や文化に与える影響を考慮しながら、責任ある行動を実践すること』を身に付けさせたい。教育制度はなかなか変えられないから、今できることとして「AIリテラシーの教材の開発と無償提供」を始めた。
- **人生100年時代の学び** 従来は単線的（学校→仕事→地域貢献）であったが、これからは重層的に学生、社会人それぞれの段階で地域貢献もしつつ、仕事としても関わりをもつべき。いま以上に科学技術と社会の関係が重要になる。そのためにも『リスキリング』ではなく『アップスキリング』、『学び直し』ではなく『学び足し』であるべき。

懇親会

17時00分より札幌パークホテル パーククラブにて懇親会。

節目のお祝いということでホテル会員制クラブを貸切にし、美味しい料理とお酒だけでなく、ジャズ研OBの浜中氏が率いるメンバーによる演奏もお供にした懇親会。記念の総会ということもあり、久々に総会に参加された会員からも「元気だった?」「懐かしいなあ〜!」「はじめまして」・・・などなど 沢山の笑顔と歓談の声があふれ、加えて素敵な音楽に耳を傾け、リズムを取り、歓声、拍手、お開きまでの3時間ほど、節目の年を祝うにふさわしい懇親会となりました。

※目黒会では従来の『卒年(元号2桁)+学科略号』での表記をやめ、『入学年(西暦4桁)+学科名称』を使用しておりますが、文中では文字数の関係から『入学年(西暦4桁)+学科略号』を使用しています。

総会後に豊平館内、20年前の創立総会時と同じ場所にて記念写真



懇親会の様子

